



AS-04 宝林寺

里見義堯の娘種姫が、永禄7年(1564)の国府台合戦で戦死した夫の霊を弔うために創建したと伝わります。種姫は天正17年(1589)に亡くなると、本寺に葬られたとされ、今も位牌が祀られるほか、境内には種姫のものと思われる墓所が残されています。種姫は江戸時代後期に滝沢馬琴が書いた小説『南総里見八犬伝』のヒロイン、伏姫のモデルと言われています。



AS-07 白鳥神社

市内で最も高い、千葉県指定天然記念物の大福山自然林の山頂付近にあります。江戸時代までは蔵王権現社といい、役小角により蔵王権現と、源頼朝による日本武尊の勧請伝承があります。また頼朝の夫人政子が神剣を奉納したとの記録があるとする石碑が境内に建てられています。のちに菅原道真を合祀し、明治初期に日本武神社、明治30年(1897)に白鳥神社に改名されました。



AS-05 黒川延命地蔵

溪谷橋近くにたたずむこの石仏は、享保11年(1726)に六十六部廻国供養塔として造立され、現在はイボ取り地蔵としても知られています。願主は浄心という人物で、日本全国六十六カ所の霊場に写経を納めて巡礼した行者と考えられます。塔身から基礎部にかけて、造立に関わった黒川村や折津村、夕木村など近隣の村のほか、江戸茅場村など合計15カ村の人びとの名前が刻まれています。



AS-06 立國寺

養老溪谷のシンボルとなっている朱塗りの太鼓橋を渡り、急峻な参道を登りきると、本堂が参拝者を迎えます。石橋山の合戦に敗れ、房総半島へ逃れてきた源頼朝が、再起をかけてこの地で持参の観音像に祈願したと伝わります。その由緒にちなみ、地元の人々の協力を得て昭和27年(1952)に建立されました。頼朝が天下を平定したことから、通称出世観音と呼ばれます。



見学される皆様へ

- ★歴史遺産は、郷土の歴史文化を伝えてくれるかけがえのない財産です。個人所有物であったり、私有地に置かれている場合もありますので、マナーを守って見学しましょう。
- ★駐車場は基本的にありませんので、公共交通機関を利用しましょう。路上駐車や無断駐車は厳禁です。
- ★社寺の境内や墓地は、信仰の対象です。行事が行われていたりする場合もあるので、迷惑にならないよう行動しましょう。
- ★ゴミは必ず持ち帰ってください。
- ★他人の家や社寺など建物の中に、無断で入らないようにしましょう。
- ★見学の際は、所有者の許可を得るのが基本です。特に団体で見学されるような場合は、事前に了承をとるようにしてください。
- ★保存や管理の都合上、公開日が決まっていたり、見学ができない場合があります。事前に確認して、公開日に見学しましょう。

いちほらフィールドマップ

制作・発行：市原市教育委員会

市原歴史博物館 〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 Tel.0436-41-9344 Fax.0436-42-0133

令和8年3月 第1版第1刷発行

I Museum Field

朝生原



いちほら随一の景勝地である養老溪谷の玄関口として知られる朝生原エリア。養老川が形成した美しい溪谷と豊かな自然が広がり、日本一遅い紅葉が楽しめるこの地区には、源頼朝や房総里見氏ゆかりの歴史スポットが点在しています。

I Museum



AS-01 熊野神社

鳥居脇に文化11年(1814)銘の庚申塔が建ち、参拝者を迎えます。創建等は不詳ですが、棟札によれば寛文8年(1668)に熊野三社大権現を再建したとあることから、17世紀中ごろからある神社で、祭神は伊弉册尊です。隣接する芋原公民館には、文化6年(1809)の年号の半鐘があり、かつてこの地に地蔵堂があったことを伝えます。また、敷地内には廻国供養塔などの石造物を見ることができます。



AS-02 賀茂神社

鳥居から階段を上ると、静寂に包まれた木立の中にひっそりと佇み、別雷命が祀られています。創建年代は不詳ですが、高瀧神社(旧名 賀茂大明神)が現在地に鎮座する際、粟又の滝の上から当地に一時移されたとの伝承があります。明治元年(1868)の古文書には、朝生原村の神社として、山神社とともに記載があり、現在は山神社の祭礼日に合わせて注連縄が新調されています。



AS-03 山神社

創建等は不詳ですが、明治元年(1868)の古文書には、朝生原郷(朝生原・石神・黒川・戸面)の総鎮守であったことが記され、大山祇命を祭神としています。立体的で迫力のある拝殿の龍の彫刻には、房州後藤派の一人で幕末(19世紀中頃)を中心に活躍した後藤傳吉郎住兼の銘が残ります。後藤傳吉郎の作例は、上総地域を中心に社殿や神輿で見ることができます。境内では力石などが見られます。

いちほらフィールドマップ 朝生原

総距離 約4.2km(移動時間のみで約126分)



【凡例】

- 標柱のある歴史遺産
- 主な歴史遺産等
- 公共施設等
- 推奨ルート

ひだかのぶざね
梅ヶ瀬溪谷と日高誠實

宮崎県出身の日高誠實は、元々国の役人でしたが明治19年(1886)に隠居先として大福山の麓の白鳥村を選びました。地元住民の協力を得て、切り開いた道や溪流に沿って梅400本を植えたことから「梅ヶ瀬」と名付け、その後も柑橙、石榴など約1600種類もの植樹などを行いました。また、私塾である梅ヶ瀬書堂を経営し、書家として多くの子弟を育てました。

日高誠實愛用の筆・硯・落款



奥養老三十三観音 霊場巡り

9番	朝生原青年館
11番	夕木公民館
12番	戸面青年館
13番	黒川自治会館
20番	芋原公民館
21番	根向公民館
28番	石神町会会館
29番	折津町会会館

天然記念物大福山自然林

AS-07 大福山展望台

白鳥神社

日高誠實顕彰碑

白鳥神社鳥居

